

## 令和元年度第6回あきる野市子ども・子育て会議 議 事 要 旨

- 1 開催日時：令和2年2月12日（水）午後2時～午後4時
- 2 開催場所：あきる野市役所503会議室
- 3 出席者：委員11人（欠席1人）
- 4 次 第
  - 1 委嘱式
    - (1) 開会
    - (2) 委嘱書交付
    - (3) 市長挨拶
    - (4) 閉会
  - 2 令和元年度第6回あきる野市子ども・子育て会議
    - (1) 開会
    - (2) 委員紹介
    - (3) 正副委員長の互選  
委員長 吉田委員、副委員長 榎本委員

（子ども・子育て支援新制度の概要とポイントについて）  
委員長から資料に基づき説明が行われた。

#### （4）議事

- ア あきる野市子ども・子育て支援総合計画（案）について  
事務局から資料に基づき説明が行われた。

#### 委員長

若干補足いたしますが、あきる野市の場合、本計画は「総合計画」という名前がついております。平成27年度からスタートした「子ども・子育て支援法」に基づく「子ども・子育て支援事業計画」に加え、「次世代育成支援対策推進法」に基づく18歳くらいのお子さんまで視野を広げている「次世代育成支援行動計画」、子どもの貧困対策推進計画を合わせて「総合計画」としています。先ほどのパブリックコメントの内容は、「次世代育成支援行動計画」に対する意見であると考えられます。事務局の説明に対するご質問やご意見はございませんか。

委員

資料1の7、8、9ページで、計画案の50、51、52ページに修正があるということで、「東京都の制度として」「国の制度として」という記載が削除されていますが、これまでの方が市の考え方が良く表現されていたと思いましたが、この点についての詳しい説明をお願いいたします。

事務局

今までの計画では、東京都の制度や国の制度ということを明記していましたが、どこの制度と言うより、どういうことをやっているのかを簡潔明瞭に伝えたいということで修正いたしました。

委員

制度の説明が入っていても簡潔明瞭であると思います。私としては、税金等のこともあり、どこがやっているのかは知りたいところですので、削除されて残念です。

委員

資料を読み、あきる野市が子育てに関する様々な細かい施策に取り組んでいることに、改めて感動いたしました。身近にいる子育て中の若いお父さん、お母さんにお話を聞いた中で、たくさんの支援事業があるのに、そこにたどり着くことが大変だったということがありました。概要版の最後にコードがありますが、これ以外にどのような方法で事業にたどり着いたのか聞いたら、インターネットのホームページからたどり着いた方が若干名おりました。子育て全体の支援の窓口があると、そこに行けば分かる。どこに行けば支援全体のことが分かるのか、教えていただければと思います。

事務局

「子育て応援サイト」や「子育て応援アプリ」のほか、「子育て支援ガイドブック」に相談窓口を掲載したりしています。子育て支援ガイドブックにつきましては、妊娠届や出生届が出された時や、転入の際に対象者に配付しています。また、イベント等に出向いていき、「子育て応援サイト」のチラシやガイドブック等を配布しています。窓口としては、ルピアに「あきる野子育てステーションこころの」があり、そこに「子育て支援総合窓口」を設けています。そちらの窓口で相談内容に応じた事業を紹介しております。

## 委員

転入されてきた方に、ルピアの窓口を紹介したことはあります。確かに、そこからアクセスできた方もいらっしゃいました。

## 委員長

この話については、今までも何回かこの会議でも話題が出ており、素晴らしい事業をやっている相手にも相手に伝わらなければ意味がないということでした。他の自治体ではまだやっていないところもありますが、スマートフォンで予防接種のお知らせや受診確認等を行えるようにしています。また、母子健康手帳を交付する際に色々な情報を差し上げています。冷蔵庫に貼れる相談窓口の連絡先を記載した磁石等、工夫して柔軟に行っていくことが必要です。もうかなりやってきているのではないかと思います。今のようなご意見を踏まえて事務局でもお考えください。さらに、子どもが保育園や幼稚園等に通うようになると、施設からも頻繁に情報が入るようになりますし、園の掲示板にも色々なものが貼ってあります。むしろ、施設を利用していない在宅子育て家庭の一番苦勞している人に、どう情報提供してアクセスしやすくするかが、あきる野市に限らず今後の重要な観点であると思います。

## 委員

子どもが幼稚園に入るまでは上の子を在宅で育てていましたが、「こころの」ができる前に幼稚園に入ってしまいました。「こころの」ができる前、私は自宅から五日市の子育てひろばまで通っていました。子どものことよりも、自分自身があきる野市の出身ではなく、出産後、どうしたらここに馴染んでいけるのかが問題で、ママ友を得るということでは五日市のひろばはとてめありがたかったです。他の自治体の子育てひろばには行ったことがありませんが、五日市のひろばの場合は、在駐している保育士の先生がいつも声をかけてくださいました。子どもと夫だけの生活の中において、子育てひろばに行き、ちょっとした会話をするだけでもありがたかったです。「こころの」ができて4、5年くらいたちますが、利用している友人も多いです。働いていた友人が産休・育休を取って1年半休んでいましたが、友だちがいないということで「こころの」に通い友だちができたそうです。さらに4月に仕事復帰をすることになり保育園は決まりましたが、復帰前に度々出勤しなければならない時に預けるところが分からず困ってました。その際、「こころの」の一時保育を利用できることを知ったそうです。育休中にも行ける場所があり、復帰する前にも利用できる場所があり、友人の場合は1歳児でしたが待機することもなく保育園に入れることができたのを聞いて、一貫して支援がつながっているということを身近で実感しています。

委員

「子育て応援サイト」にはアクセスしたことがありません。子育てをするにしても親も主人も手伝ってくれますし、隣に住む妹も手伝ってくれており、皆で協力して子育てをしています。私は保育士なので、どんな事業が行われているのかを周りに伝えていければ良いと感じています。

委員長

両方の立場がおありなので、両方の視点からご意見をいただきたいと思います。

委員

私も事業を利用したことはなく、冊子をいただいてもしまい込んでしまっていました。ここにこれを書いてあると言っただけで見るとは思いますが、書いてあるということも知らずに見るだけでは探し切れないのではないかと思います。ここに連絡すれば良いということがパッと見て一目で分かるようなものがあれば良いのではないのでしょうか。

委員長

会議を重ねるうちに、おいおい色々な状況もわかり、情報も入り、会議の空気感にも慣れてくると思いますので、よろしく願いいたします。

委員

周知されていないのではないかというご意見がありました。民生委員では「こんにちは赤ちゃん訪問」を健康課から依頼され、生まれて5か月から6か月のうちに訪問するという事業を行っています。訪問する際には、「るのキッズ」という情報誌や、困った時の連絡先を記載した冷蔵庫に貼るような磁石を持っていったりして、周知に関してはかなり徹底されているのではないかと思います。ただ、訪問をしても、赤ちゃんが5、6か月になっているとお母さんも仕事に出たり、お化粧をしていないからと在宅しているようですが出ていらっしやらない方もいます。お会いすれば、困ったことがあれば、一人で悩まないで、これを読んで出かけていけばいくらでも人との交流ができるとお伝えしています。

今の若い方はスマホで色々調べます。年寄りが悩んでいることをスマホで全部解決するような感じですので、調べようと思えばいくらでも調べられるのではないかと思います。

「子育て支援ガイドブック」もとてもよく書いてありますので、いつも見えるところに置いておけば良いのではないのでしょうか。配られた時には必要なくても、困

った時には何かにすがりたい気持ちになると思いますので、そういった時に読んで欲しいと思います。情報的にはかなり恵まれていると思います。

この会議に初めて出席し、本当に素晴らしい取組を行ってくださっているのだと感激しました。私も2人の娘を育てながら38年間勤めてきましたが、その頃には支援事業などは全く無く、子どもが1歳半になるくらいまでは保育ママさんに来ていただき、自分の給料は全部その方に払うような感じで子育てしてきました。本当に今の子育ては恵まれていますので、これだけ恵まれていたら赤ちゃんを一生懸命産んで育てて欲しいと思います。

先日、若いお母さんが1歳半くらいの女の子を連れて、年寄りのサロンのクリスマス会に参加しました。そこで、2人目を産みたいがどうかと言うお母さんに対して、子どもは産んでおけば育つし、かけがえのない命を生み出すことはとても大切な事だから絶対に産んだ方が良くとお年寄りたちがアドバイスしていました。若い世代同士の交流だけではなく、お年寄りの中に若い方も入ってきて情報をキャッチすることも大切であると思いました。

私も知らないことがたくさんあり、質問したいこともいくつかあるのですが、これから勉強していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### 委員長

確かに、こういう事業計画もあって、年々豊かな事業が様々に行われています。ただ、最終的に利用者に届かなければ意味がありません。「こんにちは赤ちゃん訪問」も年度途中で帰ってきた方には該当しなかったり、里帰り出産で別の場所で産む方や実家に帰ってきて産む方など人口の移動があった時には、そこが空白地帯になったりする場合もありますので、運用できめ細かい配慮が必要だと思います。

#### 委員

前回から参加させていただいていますが、計画の質がさらに良くなっていると感じています。子育て世代の方たちになかなか届かない状況があるかもしれないということですが、情報を待つということもありますし、自分から情報を捕まえに行くということも子育て世代の方にはやっていただきたいと思います。情報を捕まえに行っていただければ、必ず解決策やヒントになることにたどり着くと思います。受ける側と発信する側の人数はイコールにはなりません。悩んだ時には自分から捕まえに行っていただければ必ず解決策にたどり着き、支援してくださる市の方たちもいらっしゃるので、そういったことが皆さんに伝わっていけば良いと思いました。

#### 委員

資料1の10ページ、計画の58ページに加わる修正が載っていますが、よりき

め細やかなニーズを調整しながら量の確保を行っていかうということで追加されたと思います。これはとても重要なことで、無償化が始まって初めての春を迎えますが、ニーズの数値がだいぶ見えてきています。このような計画は一度決めると次の会議までは時間がかかるでしょうから、令和2年度にスムーズに始めて5年間のスタートが切れるように、最新のニーズの状況や幼稚園・保育園の入所状況等のデータを皆さんで見ながら検討していけたら良いと思います。今回は特にそのようなデータは無いようですが、4月になってからというよりはその前にニーズについて整理をすると、本計画にある数値との若干の差が出てくるかもしれません。是非きめ細やかなニーズに基づいた計画の変更をしていった方が良いと思います。

## 委員

立場上、色々な地区の幼児人口を調べるのですが、少子化ということで本計画のベースの資料にも載っていますが、東京都の青梅市、あきる野市、日の出町等の西多摩地区は本当に急激に幼児人口が減っています。特に、日の出町やあきる野市は大きく減少しているということで、これから外部から若い子育て世代があきる野市に魅力を感じて転入してくれるような施策をしっかりとやらないといけないと思います。本計画にはきめ細かく記載されていますが、他地域でも力を入れているかもしれません。区市町村ごとの地域間競争において、もう一つ突出した魅力あるものを発信するという目標を持ってやっていかなければならないと思います。結構転入者は多く、幼稚園でも1月、2月に引っ越してくる方がパラパラいます。お父さんもお母さんもあきる野市の出身ではなく、しかも0、1、2歳児がいる方が建売住宅を買って移り住んでいらっやっています。そういう方たちにここののを紹介すると喜ばれ、あるいはここのので幼稚園のことを聞いておいでになる方もいらっやいます。これからは、子育て支援はまちづくりのベースになっていくものですので、しっかりとした目標や視点を持ってこの会議でも頑張っていきたいと思っております。

## 委員長

あきる野市の特性をどう生かすかということは、とても重要であると思います。品川区は今後10年先まで子ども人口は増え続けるということですが、量の対応をせざるを得ないため質に対してなかなか力を注ぎきれません。幸か不幸かあきる野市では量が増えませんが、その分のエネルギーを質に向けて魅力を高め、まちづくりにつなげることがとても重要であると思います。本総合計画は法律に基づいたものですから、デリケートな微妙なニュアンスの思いを反映することはなかなか難しいかもしれません。しかし、この会議でいただいたご意見のポイントはすべて議事録に残りますから、本計画にその言葉がすっきり入らなくても、運用時に行政が意識しながら反映していくということもこの会議のもう1つの役目です。そういっ

たことも含めて、今後もいろいろなご意見を賜りたいと思います。

それでは一通りご意見をいただきましたので、本事業計画案についていただいたご意見も踏まえながら、デリケートな修正が可能であれば事務局でやっていただき、必要があれば委員長にもご相談いただき取りまとめさせていただければと思います。よろしいでしょうか。

## <一同了承>

### イ 特定教育・保育施設の利用定員について

事務局から資料に基づき説明が行われた。

### 委員長

多摩川幼稚園という固有名詞ですが、新制度では認定こども園となります。幼稚園は1号子どもを、保育所は2号・3号子どもを受け入れ、認定こども園は両方の機能を持っていますので1号・2号・3号すべての受け入れが可能です。働くお母さんが増え、0歳児や1歳児以降の保育需要が高まってきています。そこで4人増やした場合、上に持ち上がっていきますので、1から5歳児までで4人ずつ20人の供給を増やすということです。利用定員についての良い悪いということはこの会議の委員には権限はないわけですが、市全体として保育需要に対して、このような利用定員になるということです。何か特段ご意見があれば伺いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。了解ということでございます。

### ウ その他

特になし

### (5) その他

(保育所等の副食費補助について)

事務局から委員に対して意見等を求めた。

### 委員長

保育所をイメージしていただくと、国が積算している給食費は、米等の主食費が月3,000円、おかず等の副食費が4,500円、これを公費で負担するわけですが、今回は保育料を無償化する代わりに給食費、特に副食費は保護者が負担する

こととなりました。今まで、4,500円は公費の中に含まれていましたが外に出て保護者の実費負担となったわけですが、少子化対策という部分、保護者の負担軽減も含め可能な範囲で給食費の補助を出すという流れがございます。東京都では区市によってかなり対応が分かれており、主食費、副食費ともに徴収するところがあれば、23区の過半数は両方とも区で負担するところ、主食費は区で負担し副食費は実費負担というところもあり自治体によって様々です。そういった中で、あきる野市は市長の思いもあるのでしょうか。ある程度、市の財政の許す範囲で給食費の保護者負担削減のための補助金を出すということになったようです。このことに対しご意見を賜りたいと思います。

#### 委員

昨年10月から無償化に伴い給食費を徴収することになりました。4,500円が基準額となっており、東京都の23区では区の財政が豊かということもあり、ほとんどの区で行政側が負担しています。多摩地域に関しては、立川市では市の補助が3,500円で保護者負担が1,000円、区部に近い小金井市や武蔵野市などは行政側で負担しています。西多摩地区においては、あきる野市ではとても手厚く補助していただいております。当初は500円でしたが1月からは1,500円となりました。一番大きいのは第2子目以降に対しての補助で、全額4,500円を補助していただいております。きょうだいの多いご家族にとってはとても嬉しい補助となっております。西側の地区ではあきる野市だけが行っていることで、その他の自治体では副食費だけではなく主食費も徴収し、6,000円や6,200円のところもあります。無償化の前、この会議でもそうですし、保育園の園長会からの市への要望も含め、小学校1年生の給食費よりも高いのは保護者の感覚からしてどうなのかということがありました。小学校低学年の給食費4,000円を超えて4,500円はどうなのかということで、500円の補助をいただくことになったという流れです。さらに1月からは補助が1,500円に増額され3,000円負担となりました。ちょうど小学校に向かって良い階段になっているのではないかと考えています。現場では10月から給食費の徴収が始まりましたが、保護者の感想としては、特に第2子目以降の4,500円がゼロになるというのは負担が軽減されてとても喜ばれている現状です。少子化と言われている中、あきる野市ではきょうだいの多い方がたくさんいらっしゃるようです。集める側にとっても、4,000円とか3,000円といった切りの良い額の方が集めやすく助かっています。

#### 委員

幼稚園は保育所と徴収の仕方が違います。「保護者負担軽減」といって、一旦幼稚園に支払った後、半年に1回まとめて返ってくるという制度です。金額には区市に



よって大きな差があり、特に区部と市部では違い、さらに西に行くほど補助が低くなっていました。今までは他市と比べて低いということで要望するための資料を作成していたのですが、今回の給食費については、周りの市では補助が無く、500円の補助ということだけでも画期的であった上、さらに1,500円になり、西多摩地区の中では恵まれており、他市との大きな違いは出たと思います。ただし、保育所の場合は毎月の徴収額が減るためお母さんには実感があると思いますが、幼稚園の場合は来年度からは市の考えがあるかもしれませんが、今のところは毎月の支払額は変わらず後で返ってくる金額が増えるということなので、幼稚園の保護者にとっての実感はまだ少ないのではないのでしょうか。ただ、市が一生懸命努力したことについては、幼稚園を通じチラシ等を配ることもできますので、しっかりとPRしていきたいと思っております。とても良かったと思います。ありがとうございました。

委員長

利用者側としては何かありますか。

委員

保護者としては、保育料が無料になったのは助かっており、給食費が4,500円というのは仕方ないと思っていました。そこで補助が1,500円であるということで、とても助かっています。我が家では上の子が昨年1年生になったため、第2子目以降が無料の対象外ですが、周りには3人、4人きょうだいの家庭が多いので、とても助かるのではないかと思います。

委員

保護者としては大変助かっています。給食費についてはありませんが、今までは保育園児の中での第3子目は保育料が無料でしたが、第1子目から数えて第3子目が無料となったことで助かっています。

委員

うちの場合は幼稚園なのでまだ実感がなく、周りからもそういった話はありません。お子さんが中学生になっているお母さんからは、昔よりも色々なものが補助されているのでありがたいねと言われていました。

委員長

幼稚園の場合はキャッシュバックであるため最終的には一緒なのですが、感覚の違いだと思います。

委員

私たちが子育てをしていた時には何の補助もなく、誰にも言えずに辛い思いをしてやってきましたが、今はとても支援が手厚くそれはとても良いと思います。自分の娘が支援を受けたらそれは嬉しいです。ただ、財源になっている税金を支払っている人たちには独身や夫婦だけで子どものいない方も多くいらっしゃいますので、そういう人たちのことも忘れないようにすべきであると思います。こういった制度は本当にありがたいので、これで子どもたちがすくすく育ち、あきる野っ子になってくれれば大変嬉しいです。

委員長

無償化についても同じで、これも多くの国民、都民、市民の税金が使われているわけですから、そこに対する思いが必要であると思います。子どものいない家庭にとっても、我が子ではなくても社会の子であり、将来、社会保障を支える子ですから、自身が年金や介護が必要になった時に、子どもはいなくてもその子たちが働いて払ってくれると理解していただければ、双方向で良いのではないのでしょうか。

委員

今度、そのように伝えます。

委員

給食費が安くなるのはとても良いと思いました。保育園や幼稚園の給食はとても内容が素晴らしいですが、小学校に上がった時に、同じ金額を払っても質が落ちてしまうと感じたこともありました。せっかくこのように優遇されているのですから、支援を受ける側も滞納等することなく決められたものはきちんと納付し、双方が充実した内容になれば良いと思いました。

委員長

アレルギー対応の必要なお子さんが増えていたり食育ということもありますから、保育園や認定こども園では今はかなり力を入れていますので、さらに充実して行ってほしいと思います。

一通り皆さんにご意見を伺いましたが、事務局からスケジュール等で何かありますか。

#### 事務局

本日、皆さんからいただきましたご意見を踏まえまして、来週中に最終的に計画を固め、市の内部で決定したいと考えております。翌週、本計画は東京都との協議が必要となりますので都に提出し、3月18日に議会に報告させていただきます。委員の皆様にも冊子を郵送させていただきます。会議につきましては、例年6月下旬か7月上旬に開催させていただき、前年度の事業の進捗状況等についてご審議いただいておりますので、その頃に開催する予定でおりますが、急遽ご審議いただく案件がありましたら、これよりも前に開催させていただくこともございます。いずれにしても、早めに開催通知と資料をお送りしますので、よろしく願いいたします。

#### 副委員長

本日は、初めての顔合わせということで大変緊張されたと思いますが、私もここに座ることとなり緊張しておりました。色々な素晴らしい子育て支援ができてきています。私たちはとても高い金額を支払って子育てしてきたのだと感じます。ある本に、子育てや義務教育は国家の投資であり、育てた子どもたちが働くようになり税金が払えるようになるために行っているのだと書いてありました。せっかくこのような良い制度で子どもを育てているのに、引きこもり等で働けない子どもが育っているということは、制度はできてもたくましく育てられるような内容についてはあまり議論されていないように思います。人手不足であるとは言っても、引きこもっている人たちを働かせればそういった人はかなりいます。制度をつくる中で、質についても、少し話し合えれば良いと最近感じております。本日は大変ご苦勞様でした。また、次回お会いできることを楽しみにしております。

#### (6) 閉会

#### 委員長

それでは、長時間に渡りご意見あるいはご協議いただきありがとうございました。以上を持ちまして、あきる野市子ども・子育て会議を終了します。どうもお疲れ様でした。

以 上